



青少年赤十字提供プログラム

毎年1月になると、阪神・淡路大震災を思い起こし、防災について、いのちについて改めて考えますね。

阪神・淡路大震災を経験していない子供たちも、昨年の東日本大震災の恐ろしさは、テレビ等で見て、感じ取っています。

赤十字の提供プログラムで、実際の被災地の話を聞いたり、自分自身と家族や友達を守る知識と技術を学ぶことで、さらに防災意識を高めることができたのではないのでしょうか。

| 実施日 | 行事名 | 場所 |
|-------|-------|------------|
| 1月12日 | 健康・安全 | 神戸市立大池中学校 |
| 1月13日 | 健康・安全 | 宝塚市立長尾小学校 |
| 1月18日 | 防災教育 | 神戸市立鈴蘭台中学校 |
| 1月20日 | 防災教育 | 神戸市立星和台中学校 |
| 1月24日 | 健康・安全 | 神戸市立有野北中学校 |
| 1月25日 | 防災教育 | 神戸市立向洋中学校 |
| 1月26日 | 防災教育等 | 神戸市立福住小学校 |

ひょうごの赤十字



Contents

特集

1.17 ひょうごメモリアルウォーク2012

●平成23年度市川町地域防災力強化訓練

●「NHK海外たすけあい」ご協力ありがとうございました

●12月1日から一次救命処置が変わりました

●青少年赤十字提供プログラム

●講習のご案内

●予告！赤十字救急法ミニ講習会

講習のご案内 ～健康で安全な生活を送る知識と技術を～

今年度(平成23年度)の講習の受付は終了いたしました。平成24年度の予定は、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

皆さんが救急法等の講習を受け、救命の手当ての正しい知識と技術を身につけることにより、救急隊が来るまでの間、迅速に救命の手当てを行うことができる。そして健康で安全な生活を送っていただきたい・・・赤十字はそんな思いで講習会を開催しています。

AEDは人の体に電気を流すので怖い、心肺蘇生なんて難しいので自分には無理と、躊躇しますよね。しかし、自分の身の安全を守り、大切な人の命を救うための知識と技術です。是非一度、参加してみてください。



ホームページで
赤十字 兵庫 検索

パソコンから www.hyogo.jrc.or.jp

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5
tel. 078-241-9889 fax.078-241-6990
URL <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>

+ 予告！赤十字救急法ミニ講習会 +

～あなたに救える生命があります～

今年度4回目のミニ講習会を、今回はイオンモール姫路大津で開催します。

目の前で人が倒れたら、私たちに何かできることはあるのでしょうか。胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの操作法を、訓練用の人形とAEDを使って体験してみませんか？

参加無料です。講習会にご参加いただきましたら、感染防止用吹き込み用具、救急法基礎知識ポケットブックをプレゼントします。

知っていれば安心、「大切ないのちを守る」正しい知識と技術をこの機会に身につけてください。どなたでも参加できます。

開催日時：2月18日(土) 10:00～16:00
開催場所：イオンモール姫路大津 1階 オアシスコート
(姫路市大津区大津町2丁目5番)



1月17日 

1.17 ひょうごメモリアルウォーク 2012

～あの大震災から17年、防災意識を新たに～

阪神・淡路大震災から17年目を迎えた1月17日。兵庫県主催で毎年恒例となった「1.17メモリアルウォーク」が開催されました。兵庫県支部は、1階の駐車場を休憩所として開放し、寒い中、早朝西ルート、東ルート、6か所設置されたスタート地点から歩いてこられるウォーク参加者に、温かい味噌汁をサービスしました。

「寒かったから嬉しいわあ、ありがとう」と、笑顔でカップを手にされ、気付けば長蛇の列を作った休憩所は、予定数を大きく上回る約1,500人の方に利用していただきました。展示していた震災当時の様子をまとめたパネル等も丁寧に見ていただき、この17年を思い起こされているようでした。

一方、近隣のなぎさ公園ではdERUを展開。神戸市消防局等と、津波を想定しての「住民参加型」の防災訓練を行いました。神戸赤十字病院と兵庫県赤十字血液センターが医療救護班として参加。また青少年赤十字加盟校の兵庫県立舞子高等学校、神戸市立なぎさ中学校の生徒も傷病者役や担架搬送、血液製剤の搬送にチャレンジ。救護員の指示に戸惑いながらも懸命に訓練に取り組み、災害時での共助の大切さや負傷者の心情を理解することができたのではないのでしょうか。

引き続き、エアーテント内ではAEDと心肺蘇生のミニ講習を実施。「ここで、こんなこと教えてもらえるなんて、とてもためになりました」と、大人から子供まで、興味をもって参加していただきました。

平日にもかかわらず、高い防災意識を持った多くの皆さんに参加していただき、兵庫県にとって、この1月17日がいかに特別な日であるか、感じ取ることができた一日となりました。

※dERUとは、国内型仮設診療所ユニットのこと。大型テント、医療資機材、通信機器等で構成されている。



dERUを展開しての防災訓練



庁舎1階には大勢のウォーク参加者が

市川町立 甘地小学校 

平成23年度市川町地域防災力強化訓練

～自分たちの地域は、力を合わせて自分たちで守ろう！！～

1月22日、市川町立甘地（あまじ）小学校で、平成23年度市川町地域防災力強化訓練が行われました。

訓練参加者は、市川町赤十字奉仕団、甘地地区自主防災組織、市川町消防団、甘地小学校児童等、約570人。

東田事務局長の東日本大震災や地震津波災害に対する備えに関する講演では、今後いつ起こるかわからない広域大規模災害を想定し、真剣に聞き入っておられました。

その後、児童たちによる避難訓練。非常ベルと共に教室から体育館へ誘導され、避難してきた1年生から6年生までの児童は、先生の言いつけを守り、騒ぐことなくきちんと整列できました。

全員が避難終了すると、続いては赤十字職員による三角巾を使った応急救護訓練です。赤十字職員の説明を真剣に聞き、デモンストレーションを見ながら、たたみ方を練習します。低学年の児童は自分の体よりも大きな三角巾に悪戦苦闘しながらも、一生懸命にたたんでいました。

たたみ方を覚えた高学年の児童は、1年生や2年生に三角巾を巻き、傷の手当てをします。三角巾を巻いてもらった腕を見て、「わあ、これすごーい」と声をあげ、応急救護訓練終了後も包帯



一生懸命に三角巾での手当てを習う児童たち

姿のまま嬉しそうに教室へ戻って行く姿があちらこちらに見られました。

最後は市川町赤十字奉仕団による炊出し訓練で作った、アルファ化米の五目御飯で昼食です。

地域ぐるみで防災力の強化に取り組む市川町の皆さん。大人はもとより、小さいうちから防災意識を身につけていく子供たち。いざというとき、すぐに地域住民が協力し合う「共助」を活かすための、大切な訓練となりました。

『NHK海外たすけあい』ご協力ありがとうございました

12月中の土曜、日曜、全8ヶ所、延べ250人のボランティア、職員等で実施した「NHK海外たすけあい」街頭募金。今年度も多くのご支援をいただきました。

日を追うごとに寒さが厳しくなり、震えながら呼びかけする姿もありましたが、「がんばってくださいね」など、あたたかい声もかけていただき、全日程無事行うことができました。

今回のキャンペーンに込められたメッセージは「東日本大震災にいただいた海外からのたくさんのご支援に対する恩返

し」でした。

お寄せいただいた義援金は、世界各地の紛争や自然災害などに苦しむ人々のために役立てられます。日本から海外へ、たすけあいの優しさを届けるために、募金や街頭での活動にご協力いただきました大勢の皆さま、本当にありがとうございました。

今後とも赤十字の活動へのご理解をいただきますよう、よろしくお願いたします。

// 今年度のご協力いただいた義援金 // 単位(円)

| | |
|-----------|-----------|
| 兵庫県赤十字奉仕団 | 3,533,915 |
| 日赤有功会 | 3,112,742 |
| 特別赤十字奉仕団 | 161,000 |
| 青少年赤十字加盟校 | 93,370 |
| 街頭募金 | 433,923 |
| 兵庫県支部・施設 | 884,809 |
| NHK | 824,581 |
| 地区・分区、その他 | 240,241 |
| 合 計 | 9,284,581 |



講習内容変更のお知らせ 

12月1日から一次救命処置が変わりました

～大切な「いのち」を誰もが守れるように～

日本赤十字社が行う「救急法基礎講習」と「幼児安全法」が、12月1日から新しい内容に変わりました。

これは、平成22年10月に国際蘇生連絡委員会が新しく国際コンセンサス(CoSTR2010)を作成したことを受け、平成23年6月に日本救急医療財団心肺蘇生委員会が発表した、国内版「JRC(国内版)ガイドライン2010」に沿った内容に変更したものです。

- ①これまで成人と小児の異なっていた「救命の連鎖」「一次救命処置の手技」が統一され、市民の皆さんにわかりやすい救命手当の方法となりました。
 - ②ガイドライン2010心肺蘇生の手順では、一刻も早い胸骨圧迫が重要視されたことから、従来の気道確保と人工呼吸から開始をしていた手順を、心停止と判断したら直ちに胸骨圧迫から開始するように変更となりました。
 - ③「幼児安全法」が、家庭内での呼吸の障害から心停止につながりやすいこどもに適した「乳幼児の一次救命処置」を取り入れた内容に変わりました。
- 当支部においても全指導員が、新しい内容に対応する伝達研修を受け、昨年12月の講習から取り組んでいます。大切ないのちを守り、健康で安全な毎日を送るために、皆さんも赤十字の救急法を受講してみませんか。

救命の連鎖

「心停止の予防」、「心停止の早期認識と通報」、「一次救命処置(心肺蘇生とAED)」、「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」をそれぞれ4つの鎖の輪に例え、これらの鎖が迅速に途切れることなく連携されることで救命率が向上することを表しています。



あなたも鎖をつなぐ一人になりましょう!

◎ 各講習に関するお問合せ 救護・福祉課 講習係 ☎ 078-241-1499